

FUZOKU TIMES

研修旅行・文化祭特集号

2003年12月号 新聞部発行

今年度初めての発行になります。新聞部です。顧問明石先生の思わぬけがなどで一学期の発行が出来なかったことをお詫びします。皆さんいかがお過ごしですか。この時期は過ごしやさい日もある反面、肌寒い日も増えてきますね。しかも中間試験明けから作り出して二週間もかかってしまいました。

さて、皆さんは秋といて何を思い浮かべるでしょうか。芸術の秋・運動の秋・食欲の秋・読書の秋……。中には過ごしやすい今こそ勉強に励めという先生もいるかもしれません。今回の特集の一つは文化祭です。少したつてしまいましたが、どんな芸術の秋が繰り広げられたのか振り返ってみましょう。読書の秋というところで、ぜひぜひ新聞をゆつくり楽しんでください。

研修旅行

研修旅行は毎年二年生が夏休みに行く大イベントです。二年前は韓国に行きましたがその後同時多発テロ、さらにはSARSの影響で去年からは国内旅行になっています。今年は河口湖畔の三泊四日。あの富士山に挑んできました。結果はどうなつたかは後を讀んでいただければわかると思います。一組担任の市田先生には「修行」、明石先生には「八甲田山の行軍」と言われました。おっと、これ以上ほかの部員の領域を侵してはいけません。ちなみに来年はマレーシアへ行くそうです。

なお、ここで使われている富士山の写真は先生が去年の下見で取られたものです。当日は夜だったことに加え悪天候できれいな写真が撮れませんでした。ご了承

承ください。



富士登山

標高三〇〇〇メートルを越す富士山に僕たちは登ってきました。他の学校では北海道やらオーストラリアなど優雅な旅行をしている中、僕たちはえっこらえっこら山を登って……。実に長い間歩かされました。山の上の天候は変わりやすいとよく言われますが、運の悪いことに下では天気が良かったのにいざ登ろうとするとパラパラと雨が。日が沈む頃にはパラパラがジ

ヤージャーに降ってきて服は水浸し。ズボンは泥まみれ。ふらふら状態で八合目の宿につき、着ているものの片付けと食事を済ませるとそのままフトンの中へすっぼり。大慌てで寝ました。なんといつても明日の朝は御来光を見るために四時起き。いつも起きるのが苦手な僕はちゃんと起きられる心配でした。もし明日寝坊して起きたらみんな自分を置いていつてしまったらどうしよう。置いていつてくれたほうがうれしいですが。そんなことを考えながら寝ました。次の日の朝、寝ぼけながら時計を見てみると四時。こりや大変と起きようとすると隣で寝ていた友達が「なんか今日はご来光、天気が悪いらしくて見ないらしいよ。」と言ってきました。僕はわあ二時間も眠れるとそのまますーすー寝入ってしまった。思八合目を降りている間に

ったこと、なんのために八合目まで来たのだから・・・。でも山の上から見下ろす景色はともよくて、昨日の天気がうそのように晴れ渡っていました。しんどかったけれどもとてもいい経験になりました。



スポーツ研修

研修旅行三日目はスポーツ研修と題して、各自で好きなスポーツを選び、一日グループで行動しながら体を動かしました。ここでは、私が参加した「木曾馬コース」の様子を紹介します。

ホテルを出発後、紅葉谷木曾馬牧場へ向かいました。木曾馬は昭和三十年代、たった一頭残っていたものから徐々に増やされたため、今でもわずか百頭しかいない貴重な馬です。

サラブレッドのようなスレンダーな体つきではなく、道産子などと同様、ずんぐりむっくりとしています。

乗り方などは説明していただいた後、実際に乗って牧場の外へと散歩に行きました、そこで気づいたことは・・・

1. 「馬は道草を食う」。決して寄り道をしようというわけではなく、呼んで字のごとく、道の端っこに生えている草を隙あらば食べようと狙っています。やはりなめられてたんでしょうか。

2. 「正しい姿勢は疲れる姿勢」。リラックサして手綱を持ってといわれるものの、背中を伸ばしてかつ前傾姿

勢などという格好は、慣れていない人間はかなりつらいものでした。変に背中の筋肉が緊張して、疲れました。

3. 「馬はまっすぐ歩かない」。これは馬上の人間のウデがどうのこうのというものではなく、歩く馬を前から見たときに、前足と後ろ足が重なって見えることはまずない、ということですよ。何で傾きたがるんでしょうか？

乗馬後昼食をとり、河口湖畔サイクリングへ向かうべく出発しました。

ところが、ここでは結構きつい雨が降り出しました。しかし、サイクリングは敢行され・・・。

仕方なく私たちは第一目的地である「河口湖ハーブ館」へ向かいました。

濡れながらハーブ館に入ると、そこにはハーブにちなんで、香水や紅茶、石け

んなどが販売されていました。そしてなぜかガラス細工もたくさんありました。

一度屋根のあるところに入ると、雨の中になど出て行きたくないというのが人情。結局ハーブ館で待ち時間の二時間を過ごしました。まあその間ゆっくりとできたし、友達との会話も弾んだのでそれはそれなりに良かったのかもしれない。

こうして天候にもてあそばれながら、三日目のスポーツ研修は幕を閉じました。しかし、前日の夜には大雨警報が出ていたことを考えると、外に出られただけラッキーだったのかもしれない。

文化祭

九月十六日と十七日、文化祭がありました。風は強かったものの、大雨になることなくよかったです。武蔵野先生の迫真の演

技はどうでしたか。これも文化祭の名物の一つと言っているでしょう。それでは順々に見ていきましょう。バッテリー切れで一部の写真が撮れていなかったことをお詫びします。

三年一組

S M A P S H O W

学年順に紹介しているのですが、これで一日目最後になります。S M A P S H O Wといえばあの番組を思い出す人が多いのではないのでしょうか。S M A Pが登場したり、写真のようなことがあつたりと大変楽しいものだったと思います。杉本先生が料理の審査員となり、場内を沸かせていました。



三年二組

クイズ

ちなみに杉本先生は三年

二組の担任です。三年一組の担任は世界史の高田先生です。一応確認のために。

三年二組のクイズは二日目の最初にありました。クイズは得意ですか。まあ、得て不得手はあつてもみんなが楽しめるものだと思います。写真は司会を務められた二人です。

三年三組

ショー

三年三組は最初の最初でした。先生方が生徒を率いて争つというものです。

普段ならまず見られない先生方の姿がすごく印象的でした。名シーンがたくさんあつたと思います。写真は小宅先生が大疾走したものです。先生も企画を作つ

た三年三組の皆さんも本当にお疲れ様でした。



三年四組

ショー
三年四組のショーは本当に多彩でした。ここに見えていただけでもその様子がわかっていただけだと思います。そういえば衣装はどのように準備したのでしようか。少し気になります。練習ももちろん、いろいろなところで苦労したと思います。

三年五組
クイズショー
クイズショーということでしたが、このような迫真のダンスや演技が多く見られました。それにしてもさすが目立ちます。どこから持ってきたのでしょうか。ダンスは覚えることもまた

体力的にも大変だと思えます。文化祭全体を通して、がんばっているなと思いました。



二年一組

和太鼓・掛布土・マーチング



練習では太鼓がうるさかったという人もいたと思います。しかし、その練習の成果は出ていたのではないのでしょうか。マーチングもたくさんさんの拍手をもらっていました。掛布土というのは結局どういう意味だったのか疑問ですが上手だったと思います。

二年二組

映画 トリユフ

一言で表すとすれば、「傑作」に尽きる。某バトルロワイヤルや一部マトリックスを彷彿とさせる本映画は、笑いあり友情有りそして感動もひとしお。風の便りに、「主人公が溶ける」シーンがあるはずだったと聞きましたが、真偽の程やいかに。



二年三組

映画 無呼吸症候群

写真左:二年三組の CHO (グレートホスト鬼塚)と、写真右:ZHO (なんちゃってホスト鬼塚)

諸般の事情により、初日は残念ながら公開見送りとなった二年三組。男子はホスト、女子は浴衣でお出迎えのはずだったのですが、写真はその名残ですな。

見た人見た人“ラブコ



メ”と受け取られ、ロマンチックな雰囲気醸し出しておりますが、その中にも“二年三組くささ”や個々の演技が光っていました。そして極めつけが、NG特集！見知らぬおじさんライブから始まり、数々の失敗や舞台裏での盛り上がり、おじさんアゲインに、本映画の最大の見せ場で幕を閉じる。何より特筆すべきは、メインテーマが二年三組産ということ。みなさん一緒に、『星の道しるべ』を辿っていただけたいでしょうか。

二年四組

ものまね!?

紅白歌合戦

みなさんは紅白歌合戦を見ますか。僕はどちらかといえば朝型なのでたいてい途中で寝てしまいます。しかしこのショーは大変楽しかったです。もちろん眠くなることはありませんでした。歌が上手だと思っていました。やはり練習したのでしょうか。



二年五組

世界に

ひとつだけの和田

担任の和田先生を全面に出していました。クラスTシャツには「かめへん」という文字と顔がプリントされていきました。タイトルはおそらく今年大ヒットしたあの曲からでしょう。大変楽しいクイズショーをされていました。

一年一組

空き缶アート

スヌーピー

このような作品は資材集めが大変です。空き缶集めは数だけでなく、色も考えなければなりません。どのようにして収集したのでしょうか。また、全体と空き缶の大きさから必要な数を割り出すのも苦労したと思います。



一年二組

湯婆婆と

銭婆婆の神隠し

この絵はどこにあつたものかわかりますか。実は暗室の中に描かれていたものの一部です。白黒で本当の残念ですがかなり撮るのに苦労した写真です。暑さは計算外だったと思いますが大変よい作品だったと思います。

一年三組

愛の架け橋

会場を鮮やかに飾ってくれたこの作品、いったい何本のテープが使われていたのでしょうか。幾何的な美しさと考えられた色合いが印象に残りました。これもやはりカラーで印刷したいものです。台風接近による強風には悩まされましたが見事一年生がつくったオブ

ジエの投票で一位になりました。



一年四組

ドラえもんアーチ

東門にインパクトのある作品がありました。皆さんご存知のドラえもん、形もシンプルですが僕はこういうのが結構好きだったりします。この大きな板や長い棒は運んでくるのも大変だったでしょう。あるいは釘や接着剤でくっつけたのでしょうか。結構時間もかかったと思います。

一年五組

デイズニーオブジェ

クラスごとの紹介もこれが最後になりました。皆さんどうだったでしょうか。最後は一年五組のオブジェです。有名なデイズニーキヤラクターがたくさん並んでいます。ひとつひとつにきめ細かく手がかけられており、よい作品になっています。

たと思います。



編集後記

いかがだったでしょうか。前作から相当なインターバルを経ることとなってしまい、部員一同、大変心苦しく思っております。なにはともあれ、今作は研修旅行と文化祭について。一年生諸君には、来年の参考ということで（旅先は180度違うのですが）、そして

二・三年生は、回想を堪能していただけたのではないかと思います。

〜研修旅行について〜

バスに揺られること約八時間、雨天決行のもと始まった富士登山は当初、不評でした。「雨降ってんのに山登んのかよ」「信じらんねー」そんな声があちらからこちらから、そして私から。道程は千メートルちょっと。平面を走れば5分とかららずに、余裕の登頂です。しかし行けども行けどもゴールはどこやねん！ガイドさんの巧妙なベース配分のおかげで息切れ一つなく、そして幸か不幸か悪天候のおかげで日差しに苛まれることもなく。しかしゴールはどこやねん。遙か遙か上方に、ぼつぼつと煌く山小屋の灯火が恨めしい。雨と霧とで登頂する頃にはもうずぶ濡れ。高山病で頭は痛いし、外気と水気とで

寒さは酷い。おまけに日の出は見られないし、「何しに来たんだよ」とクレームの嵐。

しかし、「言ってみただけ」、そんな気がしません。良いことばかりの内容ではなかったけれど、「行つてよかったね」、「そんな三泊四日でした。」登頂の達成感 数々のトラブル、そんな富士登山でした。下山後見上げた富士山に、悪態の一つもつけなかったのは、そんな感情の交錯が見え隠れしていたからなのかもしれません。去り際、自然と「お世話になりました」と山に向かって頭を下げられたことを、私は決して忘れはしないだろう。ありがとう富士山。でも、もう一度登るのはちょっとなあ・・・

〜文化祭について〜

今年の文化祭は、例年より一日減り、二日間の実施

となりました。昨年、大学講堂で盛り上がりを見せた数々のパフォーマンスも、

今年はめっきり数を減らし、中には快く思わなかった人もいたことかと思えます。しかし、一日減ったことにより、どこかでファイティ・ファイティになれた、

そんな部分もあったのではないのでしょうか。少なくとも私は、今年の文化祭が去年のそれに比べて質が落ちているとは思わなかったし、終わって後、名残惜しいとさえ思いました。そんな今年を振り返ってみようと思います。

恒例の、一年生によるオブリジェ。去年はトトロがいたり、ダンボがいたりでしたが、今年は少々趣向を変え、「千と千尋の神隠し」のトンネルや、観光地にあるような顔抜き看板（命名、私。名前が分からないう・・）といった、見るだけでなく、楽しめるもの

もあり、大変面白いものとなっていました。

二年生は、映画やクイズ、パフォーマンスと、幅広い取り組みでした。身内鼻肩をするつもりはありませんが、どれも素晴らしい出来であったと思います。

そして三年生。今年が最後の文化祭とあって、気合の入ったパフォーマンスでした。と、言っても、決して堅苦しいものではなく、感動あり笑いありの内容でしたね。先生方を交えてのショーなどといった、『これぞ三年生！』というものを見せてくださいました。

そして黄昏祭。二年生バンド「H」の切った火蓋は、勢いを落とすことなく燃え続けました。全員が参加したわけではありませんが、『附属高校文化祭』を締めくくるにふさわしいものでした。みなさん、お疲れ様。祭りは前後が一番面白いと、よく言います（吉田兼

好然り）。本当にそう思います。しかし、祭りには祭りの、そういった面白さがあることも事実です。大盛況のうちに終わった今年の文化祭、来年はどのように楽しませてくれるのか、今から楽しみですよ。もう一度、みなさん、本当にお疲れ様でした。

最後に。以前述べたとおり、現在新聞部は部員四名、全員二年生です。これが何を意味するかというと、要するに私達が引退した後、新聞部の後継者がいないということなんです。言葉に興味のある方、この新聞にわずかでも感銘を受けてくださった方、ぜひ一度、国語科明石先生若しくは部員をお訪ねください。お待ち申し上げます。

なんだか卑しい編集後記になってしまいましたが、この辺りで。

今回の知識

先日、映画『マトリックス レボリユーションズ』が公開されましたね。映画館へ足を運んだ方、DVD発売を心待ちにしている方、いろいろおられると思います。今回は、そんな『マトリックス』について。皆さん、このインターナショナルな社会に身をおくものとして、いずれ外国人の方とお話をする機会もあることでしょう。そんなときに『マトリックス』の話題がでたときの豆知識です。

映画に限らず、シリーズものには、大抵サブタイトルが付いていますよね。『マトリックス リローデッド』だったり、『スターウォーズ ジェダイの逆襲』、『ドラゴンクエスト5 天空の花嫁』、『GUILTY GEAR XX #RELOAD』だ

WORDS FOR YOU

今回は、新企画満載です。気に入っていただければいいのですが・・・ともかく、ここでは部員のお気に入りの言葉を紹介します。一緒に感動を分かち合いましょー！！

部長：人生送りバント

部員1：現在過去未来の区別はどんなに言いはったところでも単なる幻想である

アインシュタイン

部員2：一期一会

部員3：次はないかもしれへんやろ？ 次は無いかもしれへん。だから今や！

ほな、さいなら！

ったり。それで、「ハイ、マトリックス リローデッド、見たかい？」てな会話をするとします。そんなとき、外国人の方は「マトリックス2」っておっしゃるんですよね。この要領で、「スターウォーズ5」のように、サブタイトルではなく数字で表現なさることが多いみたいですよ。

さらに。英語のスペルは、『MATRIX』。なるほど、普通に読んでも『マトリックス』ですよ。では、「ハイ、マトリックス見たかい？」って問いかけてみましょう。すると、「マトリックス・・・？オウ、メイトリックス！」って返されることもあるかもしれせん。要するに、発音は“meitriks”なんですよ。だからなんだってな感じでしたが、今回の豆知識でした。それでは次作でお会いしましょう！